

序

ある若い母親が私にこんな話をしてくれました。「五歳の娘が灰の水曜日の朝食の時、『レントの間チョコレート・ミルクを口にしない』と言ったので、私は娘に、『レントは四十日もあるのよ』と言いました。そして、夕食になつてから、娘は私に尋ねました。『四十日つてどれぐらい長いのか?』」

この話は、レントが特別な時ではあつても、同時に問題に満ちている期間であることを言い表わしています。いちばん深刻な問題は、レントをひとりぼつちの旅に変えてしまう誘惑があることです。つまり、あまりにも自分自身のことにも目を向けすぎて、神や他のクリスチャンに目を向けることが少なくなることです。この冊子は、レントの旅において、私たちがひとりぼつちでなく、共に歩むために役立つようにとの願いをこめて書かれました。ここにある黙想を用いて一日を始める時、同じようにして、その日を始めている人たちのことを思いうかべて欲しいのです。もし、あなたが、この黙想を夜休む前に使っているなら、同じようにして一日を終えようとしている人々と思いをひとつにして欲しいのです。

あなたにとつて一番良い時と、良い場所を決めておいて、この冊子をお使いください。私にとつては朝早くが一番良いのですが、すべての人にとつてそうとは限らないでしょう。あなたが夜型の人でしたら、夜、次の日の黙想をお使いになることをお勧めします。どんな場合でも、聖書を手にして、その日の個所の全体を祈り深く読んでください。また、祈りのために一番良い場所を選んでください。この冊子は、車の中に、キッチンのカウンターに、コーヒーターブルに、どこにでも置いておくことができます。あなたにとつて一番良いところなら、どこで祈るかは問題ではないのです。

イースターの神秘に向かつて旅するにあたり、私たちみんながストーリーを語るものであることを覚えておきましょう。もし、あなたが深く心にとめているストーリーをお持ちならそれを私に教えてください。私はいつも新しいストーリーを探しています。私のために祈ってください。私もあなたのために祈ります。

二〇〇〇年

ジョセフ・クリードン

「しかし、今、——主の御告げ。——心を尽くし、断食と、涙と、嘆きとをもって、わたしに立ち返れ。」あなたがたの着物ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深く、怒るのにおそく、恵み豊かで、わざわいを思い直してくださるからだ。(12~13)

私たちが今日受ける灰は、私たちの神への求めや嘆きを表わしています。預言者ヨエルは私たちに全き心を持って主に立ち返れと言っていますが、問題は、私たちが全き心を持っていないことにあるのです。私たちは散り散りになった心、思い煩う心、恐れる心、孤独な心、傷ついた心を持っています。

ヨハネの福音書に「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです」(ヨハネ14・1~2とあります。私たちはみな、思い煩う心をもっており、それは、すべての人を一つに結びつける共通のものかもしれません。私たちは何が私たちを煩わせているか、おぼろげながら知っています。それは、私た

ちが道を失った世界に住んでいることです。私たちは以前より裕福になりました。しかし、空虚な思いは増えています。私たちはかつての時代よりも、もっと多くの教育を受けています。しかし、無知が私たちの世界を狭いものにしていきます。私たちはどうしたら平和に生きることができか知っているのに、暴力が町の中を、学校の中を、そして隣、近所を歩き巡っています。こうした矛盾が私たちの心を煩わせ、くじき、しなえさせるのです。

何年か前から、私はこの日のための命令「悔い改めて福音を信じなさい」を、「悔い改めて福音を信じましたか」という質問に変えています。灰の水曜日になると私はいつも、金のネックレスや指輪をつけた、あるチャーミングな若い女の人のことを思い出します。彼女は私のこの質問に「そうしたいのですが、それはとても難しいものになりそうですね」と答えました。

祈り 豊かな赦しの神よ。私は煩った心をもって今日、あなたのもとに行きます。私が自分の不信仰よりもあなたの赦しに、もっと信頼するよう助けてください。

人は、たとい全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありません。(25)

「利益は世界を巡る」―私たちはそう言い、そのように信じています。それはギャンブル業界の増殖的な成長ぶりを見ただけでも分かります。毎年何十億ものお金がそのために費やされています。人々は魅惑の大自然に虫のように群がってくるのです。くじにあたる確率が天文学的なものであり、それにあつた人々の数がどんなにわずかか、そしてその人たちの人生がどんなにダメージを受けるかということが、そこではきれいさっぱり忘れられています。「むさぼりは良いことだ」という哲学が幅をきかせ、今日の福音書のチャレンジは「敬虔な思いに満ちた考えですね」と言われるだけで心に留められることはないのです。

数年前のことですが、ある貧しい人々の多い教区の司祭が、当たらなかつた宝くじをそこに入れるようにと、かごを置いたことがあります。一月月してそれを集めてみると、人々は、大もうけをねらつて、一ヶ月のうちに数千ドルも宝くじのためにお金を使っていました。この司祭は、一年間宝くじを買うのをやめて教区に寄付するよう人々を説得しました。教区は集まつたお金を、人々

が家を買つたり修理したりするため、仕事に行くために安心して乗れる車を買うために低利で貸し出しました。人々は分け合うことの力を理解した時、自分の生活や隣人の生活を改善することができたのです。

レントの期間、ギャンブルを止めるといふのは、あまりにも極端な考えでしょうか。大当たりを狙つてどれだけのものを費やしているか、立ち止まつて計算してみましよう。そのお金をチャリテイに向けましよう。家族と、隣人と、そして友人とひとつになつて、より有益な結果を選びましよう。ともに手をつないで、私たちの世界をより良いところに行けることを発見しましよう。

祈り 宇宙の神よ、ギャンブルを止めることはデザートを食べないことより難しいことです。しかし、この小さな犠牲が、私自身だけでなく、世界をより良くできることを信じ、体験することができるよう、助けてください。

神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。

(17)

私は、子どもの頃から、完全に罪を悔やむことについて聞かされてきました。それは、「罪の告白をしないで、自分の罪に苦しむことである。そうすれば、それによつて罪の赦しを得るだろう」というものでした。おとなになつて私が分かったことは「ごめんなさい」と言うこと、自分のしたことゆえに心からわびることがどんなに難しいかということでした。子どものころは犯す罪も小さく、「ごめんなさい」と言うことはやさしいことでした。しかし、おとなになつて私の罪も大きなものになつていくにつれ、心から「ごめんなさい」と言うことが難しくなつてきました。

私たちが罪の赦しについて教えられてきたことには欠陥がありました。教会は、わざと間違つた教えをしてきたのではありませんが、大切な真理を忘れてきたのです。教会は、あがないが、人間の不完全な行為のゆえにはなく、神の豊かな寛容によつてなされたこと、ヨハネの福音書に「神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほどに、世を愛された。それは御子を信じる者

が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つたのである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によつて世が救われるためである」(ヨハネ3・16~17)と書かれていることを忘れていたのである。救いのわざは神のものであつて、私たちのものではありません。私たちに「完全に罪を悔やむこと」は必要ではありません。私たちに必要なものは完全な受容です。私たちの人生に神の救いの愛を受け入れることなのです。

私たちの最後の切り札は、神が私たちを愛しておられることであつて、私たちが完全に罪を悔やむことではありません。神の愛は私たちの罪よりも大きく、これからも変わらずそうなのです。レントの期間の、私たちの小さな犠牲のすべては、神の愛の赦しを心に迎え入れるためなのです。そのことが起こる時、私たちは変えられるのです。

祈り 神よ、あなたは愛の親、忍耐深い友です。あなたの善に頼ることができるよう、助けてください。救いの賜物を受け取ることができるよう、私の心を開いてください。

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

www.penguinclub.net